

グリーンインフラ：「自然と、つくる。」まちづくり

□インフラの維持管理・修繕等に係る官民連携事業の導入検討  
官民連携グリーンチャレンジモデル

①提案によって解決する自治体の課題のイメージ

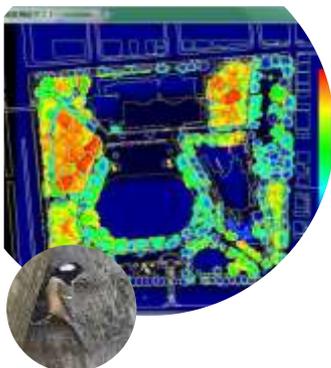


2000年代以降、自然を賢く利用することで人間と生態系の調和を目指す仕組みとして“グリーンインフラ”が世界的に注目されてきている。日本でも2010年代中頃から“グリーンインフラ”という言葉が国土形成計画などの国の政策でも使われはじめ、2019年には国土交通省によりグリーンインフラ推進戦略が策定されるなど、国内での積極的な展開を促す仕組みが形成されつつある。

自然を育み、その機能を最大限に活かす技術をパッケージ化し、自然共生社会やグリーン社会の実現に向けて「自然と、つくる。」を実践する。

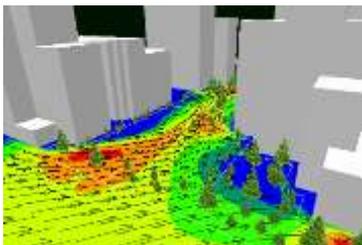
②提案の概要

生物の生息地評価モデル



- 鳥類や昆虫類を指標とし、出現確率を計算
- 最適な植栽配置を設計段階で検討可能
- 東京～大阪で実測した豊富なバックデータ

風環境シミュレーター「Zephyrus(ゼフィルス)®」



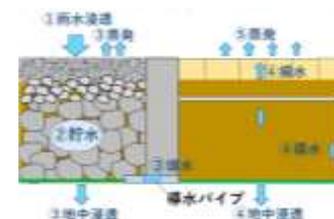
- 街区内の風の流れを植栽による緩和効果も含めてシミュレーション
- 心地良い風を演出する最適な植栽配置を提案



透水性舗装  
「ハイドロパイブ・ライト®」



- 一般的な透水性舗装の約2.1倍の貯水能
- 湿潤舗装を組み合わせることにより路面温度低下
- 路床以下への浸透や大気への蒸発も促進



②提案の概要

草地のビオトープ

- 日本で急激に減少している草地の生態系を復元し、生物多様性の向上に大きく貢献。
- 外構や道路際などの余剰地を有効活用
- 管理は年2-3回の機械刈りで、選択的除草などの特別な管理は不要。



ホタルブクロ



ミツバツチグリ



ワレモコウ



ツリガネニンジン



ツルボ



チップクリート®を用いた低管理型緑化工法



- 木材チップを利用したチップクリート®を用いて法面を確実に保護
- 緑地の維持管理費用を大幅に削減
- チップクリート®は酸性土壌の緑化などでも実績多数



チップクリート®



③スキーム（技術）の導入により得られる効果

- 自然の機能を科学的に評価し、それを用いることで、人間との新たな関係を構築し、グリーンインフラを使った最先端のまちづくり事例を構築する。
- グレーインフラの機能代替、低管理など、コストダウンにも貢献する。



その他

- ここでは紹介していない、その他複数の技術があります。詳細は下記サイトを参照下さい。

特設サイト

「自然と、つくる。」大林組のグリーンインフラ  
<https://www.obayashi.co.jp/green/>

